

(資料)

## REFRANERO ESPAÑOL (43) スペインの諺辞典

Bernardo Villasan<sup>\*</sup>(ed.)

新 井 藍 子<sup>\*\*</sup>

### 1548. Sobre un huevo pone la gallina.

卵の上に メンドリは産む

- どんなにわずかでも資金があれば、前進できる。(スバルビィ) 何らかしらの励みがあることの大切さをいう。(パロス)
- コレアス諺集には、古語の表記がでてくる；“Sobre un güevo pone la gallina. 同訳”
- 例題：ドン・キホーテ第二部 7 章、三度目の出立にあたり、毎月の給金が欲しいサンチョは、よく知られている一連の諺を使ってドン・キホーテを一生懸命に説得しようとする。たとえわずかでも自分の稼ぎ高を知りたいというサンチョ、“...；que sobre un huevo pone la gallina, y muchos pocos hacen un mucho, y mientras se gana algo no se pierde nada. ...にわとりも玉子のあるそばに玉子を生むだし、ちり積もって山となるだし、いくらかずつでも稼げれば、損じゃけっしてねえだ。”(続編一、永田寛定訳)
- 人を動かすためには、激励の言葉、感謝の気持ち、自身の明確な動機、むろん、サンチョが言うようにお金などであろう。

<sup>\*</sup> Facultad de Humanidades. Universidad de Fukuoka.

<sup>\*\*</sup> Profesora de español en la Universidad de Fukuoka (Facultad de Humanidades).

**1549. So el buen sayo hay hombre malo.**

立派な衣の下に 悪い男

- みかけは立派な衣服を着用して紳士のようなが、中身はそうではないということ。
- “So” とは，“bajo—下” のこと。
- 類義の諺には，“El buen traje encubre el mal linaje. 立派な衣装は、お里を隠す”（筆者の諺辞典，諺 168 を参照），“Debajo del buen sayo está el hombre malo. 上  
等な衣の下に、悪党がいる”（立派な外見と卑しい中身を対比させている一同諺辞典，  
諺 380 を参照），“Detrás de la cruz está el diablo. 十字架の後ろに悪魔がひそんで  
いる”（外見は善良そうに見えるが、本当は悪党である一同諺辞典，諺 403 を参照），  
“Bajo la miel está la hiel. 蜜の底に苦味あり”（偽善者をいう）などがある。また、  
反義の諺には，“Bajo una mala capa se esconde un buen caballero. みすばらしい  
衣の下に、立派な紳士が隠れている”（風采はみすばらしいが、心は美しい），  
“Parecer cuervo en el manto, y ser cisne en el canto. ケープを羽織ったカラス  
に見えるが、本当は歌をうたう白鳥” などがある。
- 人の中身は外からは見えないので、世間でまかり通るのは“浮世は衣裳七分”である。  
また，“わら人形も衣裳から”という諺は、どんなに内面がからっぽでつまらない者  
でも外面を衣裳で飾れば立派に見えると言っている。

**1550. Sol (El) de marzo, quema las dueñas del palacio,**

**mas no las del bien concertado.**

三月の太陽は 屋敷の奥方を 日焼けさせるが

働きものの女たちは 日焼けしない

- コレアスによると；“家の中で仕事に精を出しているきちんと生活している女たちと、  
屋敷に住んで怠惰な生活を送り、誰とでも玄関の所でお喋りに興じている女たちを対  
比させている。こういう諺もある，“La mujer necia, a su puerta se pone negra.  
愚かな女は、戸口で真っ黒に日に焼ける”，“Los aires de marzo, o los soles de  
marzo, queman las dueñas del palacio...三月の微風と太陽は，屋敷の奥方を日焼け  
させる...” など。また，<El palacio concertado—整然とした屋敷>とは，女子修  
道院とも考えられる，何故なら彼女らは規律によって生活しているので，太陽にも風

にも日焼けすることはない。一般の住居より堅固でしっかりと守られている。”

- 異表現には “Sol de marzo quema las damas del palacio, mas no las del ordenado. 同訳” (太陽から守られた家の中できちんとした生活を送っている女たちは日焼けしないが、あちこちと歩き回ったり、窓辺とかバルコニーなどでぶらぶらしている女たちは日焼けする—バロス) がある。
- “Sol—太陽” を文頭にもってきた一連の諺がいくつかある； “Sol de enero, siempre anda detrás del otero. 一月の太陽はいつも丘の後ろにいる” (天空に昇る時間が少しで、すぐに沈むから—バロス), “Sol de marzo hiere como mazo. 三月の太陽は木槌のように人に当たる”, “Sol puesto, obrero suelto. 沈んだ太陽, 解放された日雇い” (昔, 太陽がでてから, 沈むまで働いていた頃のこと—バロス), “El sol que madruga, es señal de lluvia. 朝焼けは, 雨のしるし”, “Sol que mucho madruga, poco dura. 早起きの太陽は, 少ししかもたない”, “Sol madrugero, no dura día entero. 早起きの太陽は, 一日はもたない”, “Sol rojo, agua al ojo. 赤い太陽, 目に水滴”, “Sol y buena tierra hacen buen ganado, que no pastor afamado. 太陽と良い土地が良い家畜を育てる, 評判の高い牧人ではない”, “El sol sale para todos. 太陽は皆のために出る” (神は一人ひとりに役目をお与えになる—バロス), “El sol y el aguacil, y el médico, por do quiera entra y vuelve a salir. 太陽, 警官, 医者はどこでも好きなところから入り, また出ていく” (正義の名の下に警官はどこでも必要があり, 好きなところへ入っていく—コレアス) など。

### 1551. Son como uña y carne.

切っても切れない仲である

- 口語的表現の成句で, 親密な仲を意味する。(コレアス)
- “uña—爪と carne—肉” がぴったりくっついているような仲であるということ。
- “宝典 (コバルビアス)” には, “carne” の項目に次のような格言が見られる； “Donde os comieron la carne, que os roan los huessos. 肉が食べられた場所の骨をかじる” (若い夫が世界中を旅するといつて家を出て行ってしまった。その夫が貧乏な年寄りとなって家に戻ってきた。しかし, 妻は夫が家に入ることを許さなかった—コバルビアス) また, 熟語には； “Estar en carnes—estar desnudo sin vestidura sobre sí, 服も着ないで裸のままである”, “Tomar la muger en carnes, 持参金を

持ってこない女と結婚する”などがある。

**1552. Son habas contadas.**

それは分かりきったことだ

- スペイン王立アカデミー辞書：1) 口語的表現の成句で、或る事柄が、明白で確実であることを意味する。2) わずかな、一定した数を意味する。
- コレアス諺集：確実で明らかなものを見積もる、計算すること、利潤とか収入の勘定が明らかである。
- バロス：勘定が明白である。

**1553. Sopas (Las) y los amores, los primeros son los mejores.**

スープと恋愛の味は 初めが最高

- おかわりの味はそれほどでもないから。(バロス)
- 誰にとっても初恋は忘れがたい。“Sopas—スープ”に関しては“Sopa en vino no emborracha, pero arrima a la pared. ワイン入りのスープは、酔わせはしないが、壁にもたれさせる”, “Sopa en vino no emborracha, pero agacha. ワイン入りのスープは、酔わせはしないが、うずくませる”, “Sopas de añedido, ni son buenas ni saben bien, ni marido de otra mujer. つぎ足されたスープとよその亭主は美味しくない” (añedido は, añadido のこと) などの諺がある。

**1554. Soplar y sorber no puede ser.**

息を吐くのと 吸うのは同時にできない

- 同時に二つの相反することはできない。(バロス)
- イリバレン (格言の由来) によると; “標題の諺は巷間に次のように間違って流布されている, <Sopas y sorber no puede ser. スープ (をすするの) と (息を) 吸うのは同時にできない> 標題の諺は<同時に相容れない事柄を成し遂げることはできない>という意味で筋が通っている。こちらのスープのほうは、あまり意味が明白ではないが、スプーンでスープを<sorber—吸う, すする>ことを指しているのかもしれない。コレアス諺集には、次のように両方とも収載されている, <Soplar y sorber, no puede ser. 息を吐くのと, 吸うのは同時にできない>, <Sopas y

sorber, no hay tal comer. スープ (をすすりながら) 息を吸うという食べ方はない> 時が経過するうちに人々は、この二つの諺を混同して用い、こうして<Sopas y sorber...>のほうは合成の諺となったのであろう。”

- 類義の諺には “No puede todo ser : dormir y guardar las eras. 何もかも同時にできない：眠ったり、脱穀したり” (全く反対の二つの事を同時にすることはできない—バロス、筆者の諺辞典、諺 1165 を参照), “No puede uno servir bien a dos amos, y contentarlos a entrambos. 一人で二人の主人によく仕えることは出来ない、ましてや二人を満足させるのは無理” (この諺の典拠は、マタイによる福音書 6—24), “No puedo ser abad y balletero. 大将役と石弓の射手役をひとりでこなすのは無理”, “No se puede repicar y estar (andar) en la procesión. 行列で鐘の鳴らし役と参列役をひとりでこなすのは無理” などがある。
- こちらでは、二つの仕事をするのを “二足の草蛙” と言っている。

**1555. Suegra, ni de azúcar buena.**

姑は砂糖で作っても 甘くない

- 姑というものは、どんなに温厚で周囲の評判がよくても嫁とはうまくいかないものである。(スバルビィ)
- スバルビィ諺辞典に次の異表現 “Suegra, ni aún de azúcar es buena. 姑というものは、たとえ砂糖で作っても甘くない” が見られる。
- コレアス諺集には、標題の諺の後半がある、また、姑に関して次のように一連の諺がある； “Suegra, ni de azúcar buena; nuera, ni de pasta, ni de cera. 姑は砂糖で作っても甘くない、嫁は練り粉でもロウソクでも、どちらで作っても出来が悪い”, “Suegra, ni de barro buena; nuera, ni de barro ni de cera. 姑は粘土で作っても出来が悪い、嫁も粘土でもロウソクで作っても出来が悪い”, “Suegra, ninguna buena; hícela de azúcar, y amargóme; hícela de barro, y descalabróme. どんな姑も出来が悪い、砂糖で作ってみたが、苦かった、粘土で作ってみたら頭にけがをしてしまった” (姑のいない妻が、人から姑とは、いやなものだと聞いたが信じられずに、自分も姑が欲しくなった。夫は妻に姑はいないほうが良いと言ったが、妻がどうしても欲しいと、砂糖で作ってみた。夫は暗闇でその姑に苦い香料をまぶしておいた。妻が来て姑を抱きしめ、キスをしたら苦かった。この姑はうまくいかなかったと言い、

妻は今度は粘土で姑を作り、高い場所に置いた。抱きしめようとしたら、その重みで妻の頭の上に落ちけがをしてしまった。それで妻は、二人の姑に幻滅してしまったという訳である—コレアス）、“Suegra, ninguna buena, y una que lo era, quebróse una pierna. どんな姑も出来が悪い、ひとり出来の良い姑がいたが、足を折ってしまった”（嫁を自分の娘のように愛していた姑が、或る日、嫁の用事のために急いで歩いていたところ、ころんで足を折ってしまった。嫁も姑を好きだったので非常に辛い思いをした。見たところ、運命の女神が姑の美德に嫉妬して、この姑をその他大勢の姑のようにしたかったらしい—コレアス）、“Suegras beodas y carrales llenas. 酔っぱらいの姑に、いっぱい酒樽”（そんなことはありえない。一銭の出費もしないで何かを成し遂げようとする人のたとえ—コレアス）など。姑についてその他にも次のようなものがある；“En cuanto fui nuera, nunca tuve buena suegra, y en cuanto fui suegra, nunca tuve buena nuera. わたしが嫁になったら、うちの姑は意地悪だった、わたしが姑になったら、うちの嫁は不出来だった”（いつでも何にでも文句をつける人をたとえていう—バロス、筆者の諺辞典、諺 536 を参照）、“No se acuerda la suegra que fue nuera. 姑というものは、嫁だったのを覚えていない”（地位などで、一段上に昇進した者が、以前の仲間の間違いを厳しく咎めることのとえ—スバルビィ、同諺辞典、諺 1169 を参照）など。

- “姑の十七見た者なし”（姑の自慢は当てにならない—岩波ことわざ辞典）、小姑一人は鬼千匹に向かう”（嫁にとって、夫の姉妹は千匹の鬼にも匹敵するほど怖くて厄介なものだ—同辞典）などが、こちらでのわずかな姑、小姑を取り扱った諺である。捜せばもっとあるかもしれないが。

**1556. Sueño (El) es alivio de las miserias de los que  
las tienen despiertas.**

寝る間が極楽

- 眠るという行為は、現実の世界を考えないのと同じであるから、眠っている者はその間だけでも、日頃彼を苦しめている悲惨な現実を忘れることができる。（スバルビィ）
- 諺の直訳は“惨めな者が、一息つけるのは、眠っている間だけ”で、標題の訳は、日本の諺をそのままつけた。両方とも寝ているときだけが安楽であると言っている。起きている時の苦しさを忘れられる。類義には“寝るが法楽”、“寝るほど楽はない”、

“寝た間は仏” などがある。

- 例題：ドン・キホーテ第二部 70 章，サンチョは，また公爵のからかいの的になってさんざん痛い目に会う，その夜，同じ部屋で寝たドン・キホーテに話しかけられ，サンチョが次のように言う，“...; y torno a suplicar a vuesa merced me deje dormir; porque el sueño es alivio de las miserias de los que las tienen despiertas. おめえさまに，もう一べんお頼みするだが，眠らせておくんなせえよ。眠るのは，みじめな思いをした者の，みじめな思いを休ませてくれるだ。”（続編三，高橋正武訳）

**1557. Sueño de abril, déjalo a tu hijo dormir;  
el de mayo, a tu criado.**

四月のまどろみは 息子を眠らせておけ

五月のまどろみは 小僧を眠らせておけ

- 何故なら，五月は日が長いので，全ての仕事を終わらせるのに充分時間がある。（バロス）
- “春眠暁を覚えず”と同様に，寝心地のよい春は，夜が明けたのも気づかずに眠りこんで目が覚めない，若い者なら尚更である。また，ぼかぼか陽気の昼食の後は，うとうとと眠くなる。くるくるとよく働く小僧はついこっくりこっくりする。そのまま起こさないで眠らせておけと言っている。
- “Sueño—眠り”については次のような諺がある；“Sueño sosegado no teme nublado. 安らかな眠りは，危険を恐れぬ”（何の心配もない者は，全ての怖れから自由でいられる—バロス），“Sueño y juego, y pasear para recrear. 眠り，遊び，そして散歩することは，リフレッシュのため”など。

**1558. Suerte (La) de la fea, la bonita la desea.**

醜女の幸運を 美女がうらやむ

- 運の良し悪しは，美人であるか，そうでないかでは決まらない。
- すでに異表現 “La dicha de la fea, la bonita la desea. 醜女の幸運，美女がうらやむ”（不器量な女たちは，心のやさしさと，みなりの良さで幸せを手に入れる—コレアス，筆者の諺辞典，諺 413 を参照）の諺を見てきた。類義の諺には，“La hija tuya, hermosa, y la mía, venturosa. あなたのお嬢さんはきれいだけど，私の娘は

運がいい”（同諺辞典，諺 675 を参照），“Tu hija hermosa, la mía venturosa. 同訳” などがある。

- こちらには，“みめは果報の基”，“人はみめよりただ心” という諺があり，美しい容姿と心の美しさ両方をたたえている。

**1559. Sufre lo poco para no venir a sufrir lo mucho.**

小さな災難に耐えよ 大きな災難を被らないように

- 些細な災難を忍耐強く我慢していれば，きっとそれが教訓となって大きな災難を防ぐことができるであろう。（パロス）
- “sufrir—忍ぶ，我慢する，（害などを）被る，受ける”を用いた諺が次のようにある；“Sufre por saber, y trabaja por tener. 知るために耐えよ，所有するために働け”，“Súfrese la carga, más no la sobrecarga. 積み荷は我慢できるが，積みすぎは我慢できない”，“El asno sufre la carga, mas no la sobrecarga. ロバは荷を我慢するが，積みすぎは我慢せぬ”（仕事の量とか，義務は我慢の限度を越えると，人をへとへとにさせる，筆者の諺辞典，諺 99 を参照），“Sufre y vivirás. 耐えよ，そして生きよ”（コレアスによると，これは聖書の<....los mansos poseerán la tierra. 柔和な人々は，地を受け継ぐ...>の考えにぴったりであると言う。これは，有名なイエスの<山上の説教>の中のお言葉である。<イエスは，群衆を見て，山に登られた。そこで，イエスは口を開き，教えられた。Dichosos los que reconocen su necesidad espiritual, ...心の貧しい人々は，幸いである。...で始まる御言葉が続き，Dichosos los de corazón humilde, pues recibirán la tierra que Dios les ha prometido. 柔和な人々は，幸いである，その人たちは地を受け継ぐ。（マタイによる福音書 5-3-6）
- 異表現には，“Sufrir lo poco por no sufrir lo mucho, o sufrir poco para no sufrir mucho. 大きな災難を被らないように小さな災難に耐えよ”（<Lo poco espanta y lo mucho amansa. 小さな災難は，驚かせるが，大きな災難は慣らす>という他の諺に呼応しているこの諺を肝に銘じて忘れてはならない—コレアス，筆者の諺辞典，諺 751 を参照）が，コレアス諺集にある。



## T

**1560. Tablilla de mesón que a todos alberga y ella quédase a la puerta.**

メソンの看板は 誰でも泊めるが 自分は戸外に残る

- 自分自身の利益を忘れて他の人々に尽くすたとえ、或は、他人には説教するが、自分自身は実行しようとしなないことのとえ。
- “Tablilla de mesón” とは、“戸口にかかっている木の看板、或はメソンの入り口に置いてあったテーブルのこと”
- すでに筆者の諺辞典、諺 260 には、同義で異表現の “Como la tablilla de mesón, que a los otros acoge y hospeda, y ella queda sin abrigo. メソンの看板のように、誰でも泊めるが、自分は戸外に残る” があるので、参照して下さい。

**1561. Tal cabeza, tal sentencia.**

こんな頭脳からは こんな道理

- バロスによると、二通りの解釈がある；上記に訳したように、人が愚かな答え方をした時にいう、この意味では “Tal cabeza, tal seso y tal fundamento. こんな頭脳、こんな知力からは、こんな道理” という異表現がコレアス諺集に掲載されている。他方、“頭が違えば、道理も違う” と訳せば、人は、それぞれ考え方の違いにより異なった判断をするという意味になる。日本の諺でいえば “十人十色”，“頭が違えば心も違う”，“人の心は面の如し” などであろう。

**1562. Tal es el vino para los gargajos, cual es San Bartolomé para los diablos.**

ワインは痰を追い出し 聖人バルトロマイは悪魔を  
追い出す

- スバルビィによると、俗人がワインとバルトロマイ聖人を比較している。つまり、ワインが体の内部の粘液を外に吐き出させることができるそのような性質と、バルトロ

マイ聖人が、救世主の同意を得て悪霊にとりつかれた人から、邪な精神を吐き出させたというその徳行を比較しているのである。

- “San Bartolomé—バルトロマイ聖人” は、キリストの十二使徒のひとり。

**1563. Tal es la mujer de otro marido, como la olla de caldo añadido.**

他人（再婚）の妻は 水をつけ加えたスープのよう

- 味気ないということ。
- ズバルビによると、“Tales son migas de añadido, como mujer de otro marido. 添えられた炒めたパン切れのように、他人（再婚）の妻は味気ない”ともいい、ナベ料理に炒めたパンをつけ加えたり、水を足してスープを増やしたりすると味が損なわれる。それと同じように、再婚の女は、初婚の夫においしいところを味わいつくされたので、二度目の夫にとっては味気がない。バロスによると、他人の妻は、自分の妻のように所有することができないので、本当のやさしさとか、その他の諸々の美点を享受することができない。

**1564. Tal para cual.**

似合い似合いの二人連れ

- 互いに似ている者同士を指す。
- バロスによると、あまりたいしたことのない同じような条件を備えた二人連れをいう。異表現として“Tal para cual, Pascuala con Pascual. 似た者どうし、パスクェラとパスクェル”（Pascuala は、Pascual の女性形），“Tal para cual, Pedro para Juan. 似た者どうし、ペドロとファン”がある。
- 同様に、コレアス諺集には、次のような異表現“Tal para tal, María para Juan; o Pedro para Juan. 似合い似合いの二人連れ、マリアにファン、ペドロにファン”が、同義には“Tal padre, tal hijo; tal hijo, tal padre. 父が父なら息子も息子、息子が息子なら父も父”がある。
- 筆者の諺辞典には次のように一連の同義の諺がある；“Cada cual ama a su igual y siente su bien y su mal. 人は似た者を愛し、同じように幸、不幸を感じる（合うた釜に、似よった蓋）”（諺 188 を参照），“Cada oveja con su pareja. 牛は牛連れ、馬

は馬連れ” (諺 196 を参照), “Todas las aves, con sus pares, o todas las aves buscan, sus iguales. 鳥にも似合いのつれ, 或は, どんな鳥も似合いのつれを探す” (同諺を参照), “No hay olla tan fea que no halle su cobertera. 破れ鍋に綴じ蓋” (諺 1138 を参照), “Nunca falta un roto para un descosido. 布のほころびには似合いの破れ (破れ鍋に欠け蓋)” (諺 1188 を参照), “Para cada altar hay su frontal. どんな祭壇にも, 似合った掛け布” (諺 1257 を参照), “Ruín con ruín, que así se casan en Dueñas. ドウエニャス村では, みすばらしい者同士が結婚する (似合い似合いの釜の蓋)” (諺 1491 を参照) など。

- 上記の大部分のスペインの諺には, 次のように同義の日本の諺をあてた, “合うた釜に, 似よった蓋”, “牛は牛連れ, 馬は馬連れ”, “破れ鍋に綴じ蓋”, “似合い似合いの釜の蓋” など, 又, その他にも “振じれ釜に振じれ蓋”, “似た者夫婦” などがある。

**1565. Tal te veas entre enemigos como pájaro entre niños.**

敵の中にいるのは 子供たちの手の中の小鳥と同じ

- 一般に, 小鳥, 小動物は子供に酷い目に会わされるので。(スバルビィ)
- 確かに, 子供というものは手加減ができないので弱いものをいじめる時は, エスカレートしてしまうことがしばしばある。

**1566. Tal tierra andar, tal pan manjar.**

その国に入れば そのパンを食せ

(郷に入りて郷に従う)

- 風俗習慣は, その土地によって異なるのだから, 人は住んでいる場所の風習に適應する必要がある。
- 同義の諺には “Donde fueres, haz lo que vieres. その国に入れば, そこで見たことをせよ”, “Cuando a Roma fueres, haz como vieres. ローマに入れば, そこで見たことをせよ (郷に入っては郷に従え)” (筆者の諺辞典, 諺 327 を参照), “En cada tierra, su uso, y en cada casa, su costumbre. どこの土地にも, 習わしがあり, どの家にも, しきたりがある” (同諺辞典, 諺 524 を参照) などがある。
- 日本にも次のように多数の諺がある; “その国に入ればその俗に従う”, “里に入りて里に従う”, “所変われば品変わる”, “人の踊る時は踊れ” など。

**1567. Tamborilero pagado hace mal son.**

前金取った太鼓打ちは 上手に打たない

- 仕事をする前に金が払われると、人というものは、当然しなければならぬ緻密でいいいな仕事をしないということ。(パロス)
- 同義の諺には“A dineros dados, brazos quebrados. 前金取って、腕を折り”(仕事をする前にすでに手付金を受け取ったので、腕を怪我したとか、いろいろ口実もあって約束を果たさないこと、筆者の諺辞典、諺 13 を参照)、“A dineros pagados, brazos cansados. 支払われた前金に、いい加減な腕”、“Paga adelantada, paga viciosa. 前金というものは、正しくない報酬”などがある。
- きちんとした仕事をしてもらいたいなら、決して前払いなどせずに仕事が終わってからそれに見合った報酬をすべきであるということ。外国を旅して払うチップなどはその良い例であろう。

**1568. Tan bien parece el ladrón ahorcado, como en el altar el santo.**

絞首刑の泥坊も 祭壇の聖人も そこにびったり

- 誰でも人は、その人にふさわしい場所に居るべきである。(スバルビィ)
- 次のような異表現 “El ladrón en la horca y el santo en el altar, para bien estar. 絞首台には泥坊が、祭壇には聖人がびったりおさまっている”、“Parece el ladrón en la horca, como el santo en el altar. 絞首台には泥坊が、祭壇には聖人が似合う”が、それぞれスバルビィ諺辞典、コレアス諺集に収載されている。
- 人には適材適所があるということ。

**1569. Tan bueno es Pedro como su compañero.**

ペドロが善良なら 仲間も善良

- 二人の間の信頼関係はお互いが作るものである。(スバルビィ) 似たような二人の人を指している。(パロス)
- 次の異表現 “Tan bueno es Pedro como su amo. ペドロも主人も同じくらい善良”、“Tan bueno es Pedro como su amo, y mejor un palmo. ペドロも主人も同じく

らい善良, でも主人のほうがもう少し善い”がそれぞれパロス諺集, コレアス諺集に見られる。

- 相手を信頼すれば, こちらも信頼されるし, 相手に好意を持たば, こちらも好意を持たれる。人間関係の機微を突いた諺である。ただし, パロスの解釈によれば, どっちもどっち, 同じような素質を備えた同類の二人を指している。先にあげた諺 “Tal para cual. 似合い似合いの二人連れ” (筆者の諺辞典, 諺 1603 を参照) と同様の意味となる。

**1570. Tan buen pan se hace aquí como en Francia.**

ここでも フランスと同じように  
美味しいパンを焼く

- どんな場所であれ, 人が住んでいる所には, 神の摂理が働いて, 人間の糧に気を配ってくれるものであるということ。又, ある場所に有能な人物がいれば, 他の場所にも同じように有能な人物がいるものである。(スバルピィ) 最上のものを引き合いに出して, これくらい自分のものも良いのだと己の所有物を誇示している。(パロス)
- 例題: ドン・キホーテ第二部 33 章, 公爵夫人に, 島の統治は任せられないかもしれないと言われたサンチョが次々と諺を繰りだすうちの一つがこれである。気がいと言われている主人について歩くだけで, たとえ島を統治できなくてもそれはそれで結構という意味で使っている, “...; y aun podría ser que se fuese más aína Sancho escudero al cielo, que no Sancho gobernador. Tan buen pan hacen aquí como en Francia; y ...それに, 従士サンチョの方が太守サンチョよりも, 天国へらくに行けるってことさえあるかもしれねえですが。ここだって, フランスにまけねえパンを焼いているだ。” (続編二, 永田寛定訳)
- フランスのパンは美味しいことで有名である, 何回となくフランスを訪れてそのパンを食しているが, 毎回とても美味しいことを実感している。

**1571. Tan contenta va una gallina con un pollo, como otra con ocho.**

一羽のヒヨコを連れたメンドリは 八羽のヒヨコを  
連れたメンドリと同じように 満足げに行く

- 誰もが自分の家族が最高だと思っている。(パロス)
- メンドリは自分の羽の下にヒナドリを庇護する。子供を持った親の満足感は子供の数によるものではない。たった一人しか子供がいなくても、たくさん子供がいるのと同じように満足し、愛情を注ぐ。

**1572. Tan lejos de ojos, tan lejos de corazón.**

目から遠ければ 心からも遠い

- 死んでしまった人も、遠くに離れて行ってしまった人も年月が経つと共に忘れ去られていくということ。
- すでに次の一連の異表現 “Ausencia, enemiga de amor, tan lejos de ojos cuan lejos de corazón. 不在は愛の敵、目が遠くになれば、心も遠くにある” (筆者の諺辞典, 諺 114 を参照), “Lo que los ojos no ven, el corazón no lo desea. 目から遠ければ、心から遠い” (同諺辞典, 諺 765 を参照), “Ojos que no ven, corazón que no siente. 目が見なければ、心は感じぬ” (遠くで起こっている気の毒な事は、すぐ傍で見ているよりもずっと感じ方が少ない—同諺辞典, 諺 1214 を参照), “Ojos que no ven, corazón que no duele, que no quiebra o no llora. 目が見なければ、心は痛まぬ／心は悩まぬ／心は泣かぬ” (コレアス諺集), “Ojos que tal ven y oídos que tal oyen. 見れば目の毒、聞けば気の毒” (同諺集) を見てきたが、標題の諺も同じことを謳っている。つまり、日本の諺の“去る者は日々に疎し”、“遠くなれば薄くなる”、“月日かわれば気もかわる”の意味。類義の諺には“A muertos y a idos, pocos amigos. 死者と去る者には、ほとんど友はいない” (筆者の諺辞典, 諺 65 を参照) がある。

**1573. Tan presto va el cordero como el carnero.**

仔羊は 親羊と同じように 速く走る

- 若さをあまり当てにすべきではない。年寄りと同じようにすぐに老いと、死がやって

くるから。(スバルビィ)

- 類義の諺には “En los nidos de antaño, no hay pájaros hogaño. 昔の巣には、今は鳥がない” (人の世は、無常で移ろいやすい—筆者の諺辞典, 諺 552 を参照), “No hay cosa tan ligera para huir como la vida. 人生ほど、軽々と逃げていくものはない” (はかなく、すばやく消えていくのは人生である—同諺辞典, 諺 1119 を参照) などがある。
- 例題 1 : ドン・キホーテ第二部 7 章, ドン・キホーテに促されて本当に言いたいことを遠回しにサンチョは、諺を混ぜて話す “..., todos estamos sujetos a la muerte, y que hoy somos y mañana no, y que tan presto se va el cordero como el carnero, y que ...わしらはみんな、死ぬ人間でね、きょうあっても、あすはねえだし、子羊も親羊ももろいことはおなじだし、...” (統編一、永田寛定訳)
- 例題 2 : セレスティーナ第 4 幕, 若い時がいくら楽しくても、本当の年寄り若い時代を望みはしないと、セレスティーナ, “Tan presto, señora, se va el cordero como el carnero. Ninguno es tan viejo, que no pueda vivir un año, ni tan mozo, que hoy no pudiese morir. 子羊も一人前になった羊同様早いところ、屠殺されてしまいます。一年を生きられない老人もいませんが、今日死ぬことがないという若い者もおられません。” (魔女セレスティーナ, 大島正訳)
- 若い時には、まだまだ先は長いと誰でも思いがちだが、歳月は早く過ぎ去ってしまいすぐに老いてしまうということ。“朝に紅顔ありて夕べに白骨となる”, “少年老い易く学成り難し” などは、こちらでよく聞かれていた同じ主旨のことばである。

**1574. Tantas veces da la gotera en la piedra, que hace mella.**

雨垂れ石を穿つ

- 長い年月の間には、雨垂れでも石に穴をあけることができるように、微力であってもこつこつと辛抱強く続ければ、いつかは目指す地点にまで到達でき、大きな成果が得られる。
- 異表現には “Continua gotera, horada la piedra. 絶えまぬしずくは、石をもうがっ” (筆者の諺辞典, 諺 297 を参照) が、また、同義には, “Escalón a escalón, se sube la escalera a mejor mansión. 人は一階ずつより立派なマンションへの階段を昇っていく (塵も積もれば山となる)” (根気よく上を目指して歩んでいけば、いつし

か目標へ到達できる一同諺辞典，諺 574 を参照），“Gota a gota, la mar se agota. 一滴一滴，海は尽きる”（少しづつでも忍耐強く続ければ，目的を達成できる一同諺辞典，諺 619 を参照），“Un grano no hace granero, pero ayuda al compañero. 塵も積もれば山となる”（微力でも長く積み重ねる努力，根気が大切である一同諺辞典，諺 621 を参照），“Grano a grano, hincha la gallina el papo. 一粒づつメンドリは，餌袋をいっぱいにする”（同諺 621 を参照），“Llevando cada camino un grano, abastece la hormiga su granero para todo el año. ひと粒づつ運んでいけば，蟻は穀倉を一年分充たす”（日々の精進が大きな成果に結びつく一同諺辞典，諺 780 を参照），“Muchas candelitas hacen un cirio. たくさん小さなロウソクも，大きなロウソクとなる”（ごく小さなものでも，たくさん集まると大きなものになる一同諺辞典，諺 957 を参照），“Muchos pocos hacen un mucho. たくさん小さなものも，大きなものとなる”（同諺辞典，諺 976 を参照）など多数ある。

- 日本の諺には，同義，同表現の“雨垂れ石を穿つ”，“点滴石を穿つ”，“水滴石を穿つ”などがある。また，類義には“念力岩をも通す”，“小さな流れも大河となる”，“牛の歩みも千里”などがある。

**1575. Tanto escarba la cabra, que descubre el cuchillo con que la matan.**

あまりにも地面をひっかく山羊は  
屠られる包丁を 見つける

- 最悪の事態を招かないように，物事はあまり深く追求しないほうがいい。（バロス）わざわざ余計なことをしたために，かえって災難を蒙るような悪い結果を招くことのとえ。（筆者）
- 次の異表現 “Tanto escarba la cabra, que sangre se saca. あまりにも地面をひっかく山羊は，血を流す” がまずコレアス諺集に，また，バロス諺集には “Muchas veces, el que escarba, lo que no quería halla. 首を突っこむ者は，たびたび見つけたくない物を見つけた”（好奇心が強く，あれこれと詮索好き者に対する警告一同諺辞典，諺 962 を参照）がある。同義には “El mal para quien lo fuere a buscar, 求むる者に，災い降りかかる”（筆者の諺辞典，諺 809 を参照），“Quien busca el peligro, perece en él. 危うきを求める者は，危うきに死す” がある，類義には “El



que escucha, su mal oye. 耳をそばだてる者は、自分の悪口が聞こえる” (同諺辞典, 諺 475 を参照) がある。

- これら一連の諺は、わざわざ自分から災難を蒙るような事を求める者に対して警告を発している。日本の諺ではたとえて“藪をつついて蛇を出す” (突っつかなくてもよいのに、わざわざ藪をつついて、蛇を出してしまうように、余計なことをしたために、悪い結果を招いてしまうことのとえ—故事ことわざ活用辞典) という。同様に“毛を吹いて疵を求む”, “草を打って蛇を驚かす”, “手を出して火傷する”, “眠っている犬は寝かせておけ” など、一連の同義の諺がある。

**1576. Tanto es lo de más como lo menos.**

過ぎたるは猶及ばざるが如し

- 物事は全てほどほどがよい。
- 例題：ドン・キホーテ第二部 4 章, 得業士カラスコとサンチョの間における愉快で機知に富んだ会話が語られる。島などではなく、ドン・キホーテはサンチョに王国をくださるにそういないと言ったカラスコに “—Tanto es lo de más como lo de menos—respondió Sancho—; ...く過ぎたのは足りねえのと同じでさ>と, サンチョが答えた。” (続編一, 永田寛定訳)
- 日本人ならほとんどの人が知っている論語の中の有名な孔子のことばで、中庸の大切さを教えている。物事には程度というものがあり、程度を超えたものは、足りないものと同じようによくないものだけということ。類義には“薬も過ぎれば毒となる”, “分別過ぎれば愚に返る”, “念の過ぐるは不念” などがある。

**1577. Tanto mata una alegría súbita, como un disgusto.**

突然の喜びは 深い悲しみと 同じように  
人を殺す

- 思いがけない喜びは、深い悲しみと同じように人をびっくりさせ、悪い影響を与えるものである。
- 異表現には “Así mata una alegría inesperada, como el dolor más intenso. 思いがけない喜びは、鋭い痛みと同じように人を殺す” がある。
- 例題：ドン・キホーテ第二部 52 章, サンチョの念願が叶ってついに島の太守になっ

た喜びを妻テレサが、サンチャゴ宛の手紙の中で次のように諺を通して言う，“Mira, hermano: cuando yo llegué a oír que eres gobernador, me pensé allí caer muerta de puro gozo, que ya sabes tú que dicen que así mata la alegría súbita como el dolor grande. そら、おまえさま、おまえさまが太守になったと知ったとき、ほんとうにうれしゅうて、その場で死んだかと思ひそ。おもえさまも知ってのとおり、にわか喜びは大痛みといっしょにて人を殺すといいそ。”（続編三、高橋正武訳）

**1578. Tanto monta, cortar como desatar.**

ほどくのも 切るのも 同じである

- 口語的表現 “Tanto monta—同じである，同じ能力である，どちらでもよい” “monta” は、動詞 “montar—重要である” の三人称単数。
- コバルビアス（宝典）によると、標題の表現は、Gordias 王（フリギア）が出した難題（nudo gordiano—ゴルディオスの結び目）からきている。アレクサンドロス大王が結び目をほどくことが出来なかったので、この言葉<ほどくのも切るのも同じだ>と言いながら剣で切断してしまった。この方法でアレクサンドロス大王は難題を解いたのである。同様にコレアス（諺集）もスバルビィ（諺辞典）も、この格言は <nodus gordianus—nudo gordiano—ゴルディオスの結び目>から出ていると説明している。
- イリバレン（格言の由来）は，“Tanto monta—あるものが他のものと同じである” という表現は、イサベル、フェルナンド両王のあだ名からきていると思われると言う、つまり <Tanto monta, monta tanto Isabel como Fernando. イサベルとフェルナンドは同権である> 注：カトリック両王 los Reyes Católicos が権限の相等しいことを表わす銘—西和中辞典，小学館
- 例題：ドン・キホーテ第二部 60 章，ドン・キホーテは、ゴルディオスの結び目の故事を思い出して、ドゥルシネアの幻術を解いてやるためには、サンチャゴがみずから手で笞を当てようと、他人に当ててもらおうと同じではないかと考える，“—Si nudo gordiano cortó el Magno Alejandro, diciendo: <Tanto monta cortar como desatar>, y no por eso dejó de ser universal señor de toda la Asia, .... <ゴルディオスの結び目もアレキサンドロス大帝は切ったではないか>, さらに続けて，<切るも解くも効き目は同じじゃ。切ってもやっぱり，大帝は全アジアに君臨したではない

か。……>” (続編三, 高橋正武訳) 注 183: <ゴルディオの結び玉>は, アレクサンドロス大帝の故事。大帝の軍がフリジアに入った時, ゴルディオ王が大神ゼウスの社殿に納めた細引きの結び玉があり, その込み入った結び玉をほどく者こそアジャを所有しうる者という言い伝えがついていた。大帝も, ほどこうとしたが, ほどきえなかった。そこで, われは剣によってアジャを征服すると言って, 剣で切りほどいたとある。—続編一, 永田寛定

**1579. Tanto monta perder, como mal ganar el haber.**

失うのも 不正に得るのも 同じである

- 何故なら, 不正に稼いだものは, 当事者に利益を与えるよりむしろ損害を与えるから。(パロス)
- この諺に関連して次の諺はこう警告している; “Ten hacienda y mira bien de dónde venga. 財産を守りなさい, そしてどこから得るかに注意しなさい” (持っている財産は慎重に守り, 新たに作る資金はその方法を考えないと, 持っていたものまで失う羽目になる—スバルビィ諺辞典)
- 日本の諺ですぐ思いだすのは “悪銭身に付かず” であろう。類義には “あぶく銭は身に付かぬ” があり, また, たとえが面白い “人垢は身に付かぬ” がある。不正, 不当な手段で得た金銭はつまらぬことに浪費してしまい, すぐになくなってしまうと教えている。

**1580. Tanto quiso el diablo a su hijo, que le sacó el ojo.**

悪魔は 息子を可愛がり過ぎて

目玉を引っこ抜いてしまった

- 無分別な行き過ぎの親の愛情は, 子供に肉体的にも精神的にも悪影響を与えるということ。
- コレアス諺集には次の異表現 “Tanto quiso el diablo a su hijo que le quebró el ojo. 悪魔は, 息子を可愛がり過ぎて, 目玉を砕いてしまった” がある。
- “宝典” には, こうでている “Tanto quiso el diablo a su hijo, que le sacó un ojo. 標題と同訳” コバルビアスによると, “子供たちに考えもなしにやたらと物を与える思慮の欠けた親は, どうしようもない子供を育てるようなものである。<diablo—悪

魔>という単語は、自分の中に悪意のある人が、一種の口癖として話す時によく使う言い方である。

- 一 日本でも同じように“親の甘茶が毒になる”とか“親の甘いは子に毒薬”と言って、子の将来のためには、甘やかすのはよくないと教えている。むしろ苦労させたほうがいいと次の一連の諺は教えている。“可愛い子には旅させよ”，“可愛い子には灸を据えよ”，“愛しき子には杖で教えよ”など。



***Sufre lo poco para no venir a sufrir lo mucho.*** Dice que se sufran con paciencia las pequeñas contrariedades, que han de servir de enseñanza para evitar las mayores.

(*Refranero español*. Alonso de Barros. Ediciones Ibéricas. 1968, p. 442).

“Un día, en aquel tiempo, Jesús me dijo:

Immi, veo toda la humanidad y cada dolor de la humanidad... Bienaventurados los que lloran...¡aunque no comprendan el don del dolor!”

(*Mi vida en Nazaret*. Editorial Católica Manuel Blanco. Sevilla. España, p. 158.)